

政策部会における意見について

5月15日に開催された国土審議会政策部会において出された集落関係の意見の概要は以下のとおりである。

都市と農村の連携が必要

- ・広域ブロックの戦略にも環境と食料自給の問題が浮上してきている。農業生産法人の数が1万を超え、耕作放棄地を対象とした活動も増えており、都市と農村との相互関係で地域を活性化することが重要である。(寺島委員)
- ・農山村と都市を一体化し、互いの価値を認知・評価するシステムが必要である。(林委員)
- ・農村には豊かな自然などの強みがあり、都市住民にとって魅力に感じるものがある。こういったことを踏まえ、都市と農村がセットになって両方サポートし合うというような仕組みの中でこの問題を考えていく必要があるのではないか。(西村委員)
- ・中山間地域の問題については、地方中小都市と一体となった圏域として捉えることが重要。(小田切委員)
- ・コミュニティの崩壊は中山間地域だけでなく都市においても起こっている。都市のコミュニティ崩壊について、先行する中山間地域のコミュニティの崩壊が教訓として何を生み出しているのかという視点からも検討すべきである。(小田切委員)

山間地と中間地の別、年齢別、男女別など、細かな対応が必要

- ・集落の問題において、中山間地域を一つのまとまりで考えるのではなく、山間地と中間地は別に考えるべきである。例えば山間地は森林面積が非常に大きく、林業の所有構造により林地の管理の担い手となる人々も違ってくる。こういった山林所有構造を踏まえた上で集落を捉え、きめ細かく対応する必要がある。(佐藤委員)
- ・過疎地域における問題は年代ごとに異なっている。若い世代では近くに働き口がないことが問題であるが、40代になると子どもの学校が遠いことが問題となっている。特に中学校や高校への進学時に子どもを下宿させなければならない地域においては、経済的な問題から、進学を契機に移住し、地域を離れてしまうこともある。高齢者だけでなく年代、男女別に意見を集約し考察を進める必要がある(佐藤委員)
- ・離島は内陸の中山間地域よりも過疎が進行しているところが多く、大都市からみると、辺境という扱いをすることが多いと思う。離島は多くの場合国境でもあり、他国とのコミュニケーションを通じて新しいチャンスがあるという意味で捉えなおすことも重要である。(家田委員)

医療の課題

- ・少子高齢化の時代において、病院等は統合せざるをえない状況にあり、広域的な医療対策としてドクターヘリ等の活用も視野に入れる必要がある。(寺島委員)
- ・過疎地域における最大の課題は地域医療である。医療機関へのアクセスも重要であるが、情報ネットワークを活用することによって解決策が考えられる。今後、医療の情報化を

図り最高齢国家という課題を克服すれば、情報・通信は日本の輸出産業として今後成長する可能性もありうる。(関根委員)

人的資源の課題

- ・ 市町村合併により、過疎地域は疎外感が増幅している。農山村を支えていた昭和一桁世代が全て、後期高齢者に差し掛かっており、支えられる世代になったことで、農山村地域において人的資源が枯渇化している。(小田切委員)
- ・ 地域の若者はコミュニティへの参加経験が不足しているため、そのような機会をつくり、若者を育てていくべきである。(鈴木委員)

移動手段の確保

- ・ これまで過疎地域の課題は教育の場や雇用の問題が多数であったが、今回の資料をみると、運転できる人の不在、買い物や通院に係る距離といった問題に変化してきている。(家田委員)

集落の地域資源の活用

- ・ 中山間地域において若い世代の働き口がないという問題があるが、その働き口となる可能性の一つとして、「観光」があるのではないか。(小林委員)
- ・ 観光の問題として、老朽化し放棄された観光施設が観光地を台無しにしている問題がある。民間所有の施設のため、自治体が条例などにより除去することは困難であるが、このような問題にも対処していく必要がある。(小林委員)
- ・ 地域の文化財は保存のみに力点を置くのではなく、活用して新たな価値を創出していくことが重要である。これを誰がどのように行うか検討する必要があり、「新たな公」だけではなく、政府の制度的フレームも必要である。(垣内委員)
- ・ 過疎地域は農産物の自給率向上を担う場としての期待が持てる。これらの生産を増加させるために、中核農家の育成を支援するような直接的な施策を行ってほしい。(大西委員)
- ・ 再生可能なエネルギーについても、地方での生産が適しているため、これに与して地域のあり方を考えてほしい。(大西委員)
- ・ 地域が持つ資源の資産価値を高めるための計画をつくってほしい。(山崎委員)

諸外国との比較検討

- ・ 集落問題の検討に際し、国内の比較に止まらず、諸外国の過疎地において求められている生活水準などと比較してみることも重要。(家田委員)

旧弊の除去の必要性

- ・ 地域における取り組みは増えていく中で、古い組織や年功序列などの体制が若者の地域活動を阻害しているといった弊害が起こるときがある。小さな現場を動かしていくためには、その背景となるような中長期的な施策が必要である。(秋元委員)